

子どもの健全育成と、SDGsの目標のうち『貧困をなくそう』『すべての人に健康と福祉を』『質の高い教育をみんなに』の実現に資する活動への支援

「子どもの自意識向上と学習機会の確保に寄与する支援活動」事業

困窮世帯や子ども食堂への食料支援を通じて 子どもの学習機会確保や自尊心向上を目指す

「『もったいない』から『ありがとう』へ。」をキャッチフレーズに、フードバンク活動を行っている「フードバンクあきた」が、子どもを養育する一人親世帯などの困窮世帯に対して食料支援をすることにより、食事の安定化と質の高い食事を確保して、学習意欲の増進につなげ、ひいては子どもの自尊意識を醸成することを目的とする活動に取り組んだ。

引き続き生活苦や物価高で困窮する世帯の 子どもたちを食料支援によってサポート

2015年に設立された「フードバンクあきた」（2016年一般社団法人化）は、秋田県内を活動範囲に、自治体、企業などと連携してフードバンク活動を行うとともに、食のセーフティネット活動として子育て中の一人親世帯、障がい者世帯、大規模水害などの被災世帯などへの食料支援活動を行うほか、生活困窮世帯の子どもたちの学習機会の確保や増大にも取り組んでいる。秋田県内では、2023年夏の2回にわたる集中豪雨の被害や今も引き続き物価高が低所得世帯を直撃するなかで、生活困窮世帯の子どもたちに対する質の高い学習機会の喪失やそれに伴う自尊意識の毀損、親の貧困が子ども世代の貧困につながる「負の連鎖」などが懸念されている。



困窮子育て世帯や多子世帯などに食料を提供

このような状況下において、当団体ではPOSCと秋田県遊技業協同組合からの助成を活用し、一人親世帯及び子ども食堂に対する食料支援活動の充実に取り組んだ。具体的には、①秋田市福祉関連部署、同市社会福祉協議会の要請を通じ、困窮子育て世帯や多子世帯など315世帯に計315回、約4.3トンの食料を提供②県内の子ども食堂6団体に対して、計23回、約2トンの食材の提供③にかほ市の子ども食堂の新規立ち上げ時に食材など1.3キロを提供④無償学習塾3ヵ所に対して、計3回、52.4キロの菓子類、補食類を提供。⑤母子世帯支援施設2ヵ所、児童福祉施設1ヵ所に対し、のべ8回、331.3キロの食料支援などの取り組みを実施し、子どもの自尊意識の醸成及び子どもの学習塾通塾と定着機会の確保に寄与した。



子ども食堂や母子世帯支援施設、児童福祉施設にも食料支援を実施

助成団体:一般社団法人 フードバンクあきた

<https://foodbankakita.com>



助成のおかげで従来からの支援活動もスムーズに展開

支援先団体や対象世帯から、支援物資について「宝箱のようだ」という評価を得ることができたことは、当団体にとってこれ以上はない喜びであり、貴機構の助成があったればこそと、心からの感謝を申し上げます。

特一般社団法人 フードバンクあきた
代表理事 林 多実さん

子どもの健全育成と、SDGsの目標のうち『貧困をなくそう』『すべての人に健康と福祉を』『質の高い教育をみんなに』の実現に資する活動への支援

「小児がんや難病等の生命を脅かす病気で療養している こどもの希望を叶える、こどもホスピスルーム」事業

難病を抱えた子どもたちやその家族を支えながら 子どもたちに様々な体験の機会を提供

こどもホスピスとは難病によって生命を脅かされている子どもたちに対して、痛みを和らげ、安らぎを与え、命が尽きる瞬間まで成長を促し続けることを本質とするケアの一種である。医療と福祉の間で大変な日々を過ごす子どもと家族が回復していく場として、こどもホスピスを全国に広げようと活動に取り組んできた。

安心できる環境で他者と関わりながら 遊びや学びを体験できるドリームルーム

長男を小児がんで亡くした代表理事が、息子と同じような病気を抱える子どもの居場所の必要性を感じたことから、2020年に設立されたのが「東京こどもホスピスプロジェクト」である。子どもホスピスとは小児緩和ケアを提供する場所で、病気や入院によって遊びややりたいことを制限されたり、学校や友だちと離れて寂しい思いをしたりすることなどから生じる苦痛を和らげることを目的としている。医療との連携を図りながら、病気や障がいのために外出さえままならない子どもたちに様々な体験の機会を提供し、子どもの“夢”や“育ち”を支えることを理念としている。

当団体では相談窓口の開設、学びや遊びの支援、グリーフケアを事業の柱としているが、その活動の一環として取

り組んでいるのが、自宅以外の安心できる環境のもとで、病児が家族以外の他者と関わりをもちながら遊びや学びを体験できる「ドリームルーム」の運営である。2024年度にPOSCの助成を活用し、小児がんや難病などで療養中で、かつ病状が安定している子どもとその兄弟を対象に、医療機関内、保育園、障がい児施設などを会場にドリームルームを実施した。参加費無料、定員6名、事前予約制で、合計45名が参加した。同じ会場で、定期的にドリームルームを開催したことで、開催に合わせて病児の受診予約をして、受診後にドリームルームを利用する家族も増加した。また、開催時間内に本人が「ドリームシート」に夢を記入するようにしたが、それにより目標設定ができ、生きがいや前向きな姿勢につながった。



ドリームルームの開催を告知するチラシ



活動の周知を図るために開催した講習会のチラシ

助成団体:特定非営利活動法人 東京こどもホスピスプロジェクト

<https://tokyohospice.jp/>



難病の子どもやそのご家族を支えるこどもホスピス事業を前進させていきます

私たちの周りには小児がんなどの病気で苦しんでいる子どもたちや、子どもの介護に24時間追われて困っている家族がたくさんいます。こどもホスピス事業を少しでも前に進めるために、お志を使わせていただく所存です。今後もお力添えをよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人 東京こどもホスピスプロジェクト
代表理事 佐藤 良絵さん